

あなたも松戸山の会へ

松戸山の会 入会案内 2017年改訂版

1、会の目的、活動状況

松戸山の会へ入会案内です。当会へ入会を検討している方は、ぜひご一読をお願いします。

山岳会への入会は初めてという方もいると思いますが、個人登山とは違って集団登山となるといろいろな制約がでてきます。その反面、入会すれば登山に関する知識や技術、様々なノウハウを先輩から学ぶことができますし、楽しい山仲間が増えます。また経験豊かなリーダーのもと、安全にワンランク上の登山にも挑戦できます。

松戸山の会は1982年11月14日に創立されました。当会の目的は、「登山を健康で文化的な生活を営む活動の一つとして位置付け、広く一般市民のものとし、会員相互の交流をつよめ、正しい登山観、登山理論、および登山技術の普及と向上を図る」ことです。

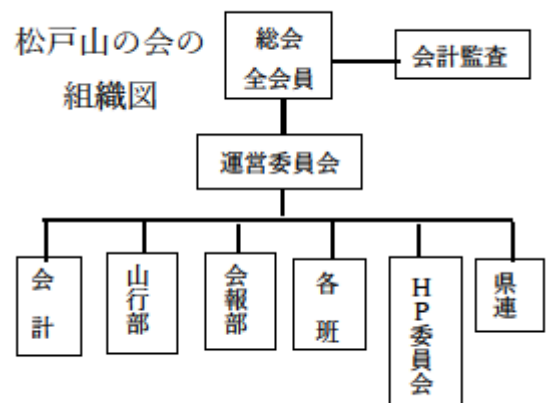
会員は松戸市とその周辺自治体の居住者で、会員数は120名余です。ハイキング・縦走・岩壁登攀・沢登り・雪山・山スキー・時には海外登山を行うなど総合山岳会を目指しています。2016年度の山行実績は、回数458回、延べ参加人数は1,709人と、旺盛な活動を行っています。

2、会の組織と運営

会の組織図は右表のとおりです。

総会は毎年6月に開催され、過去1年間の活動総括と次年度の活動方針が決められ、役員を選出します。活動方針の具体化は、毎月開催される運営委員会で論議・決定されます。その内容は、月2回開かれる例会で会員に提案され実施されます（第2水曜日全体例会、第4水曜日班例会）。全会員が出席する全体例会では各組織からの報告や学習会が行われます。会員は入会すると各班に配属されます（現在3班態勢）。班例会では、各人の山行の報告や質疑などが行なわれ、会員同士の交流を深める場となっています。例会には特別の事情がない限り出席しましょう。

山行部は、山行の企画、提出された山行計画書の点検・助言などの安全登山の推進、テ



ントなどの会所有の装備を管理します。会報部は、機関紙「山茶花」（月刊）を編集・発行します。ホームページ委員会は、会のホームページを運営しています。山行計画や山行記、ネット版「山茶花」などがアップされ会員にとって欠くことのできない存在となっています。また会の活動を広く社会にアピールし、会員増にも貢献しています。

会運営のためには前記以外にも会計係や例会の会場取り係などの任務があります。できる限り全会員が役割を分担することになっています。

山行形態別に、縦走、軽登山、岩沢の3つの分科会が設けられています。分科会ごとの会合は、班例会の後に開かれます。

3、会費など

会費は、入会金 1,000 円、月額会費 1,000 円です。月額会費は、1 年分又は半年分の前納制です。途中退会しても返金はしません。事情があって活動を休止したいときは運営委員会の承認を得て休会することができます。その期間中の月額会費は 500 円です。

登山中のケガや事故などが起きた時に支給される「労山新特別基金」制度があり、会員にはこの制度への加入を要請しています。年間 1 口 1,000 円で 10 口まで加入できます。加入口数の目安は志向する山行の危険度によって異なり、ハイキングなら 3 口、雪山 5 口、岩沢 10 口です。（労山新特別基金は別項参照）

4、山行について

山行を実行する時は山行計画書を作成し、事前（原則 1 週間以上前）に山行部に提出しなければなりません（右の書式。次ページに参加者記入欄）。この山行計画の主催者が誰かによって、以下の種別があります。

1、会山行

山行部や班、上部団体（後述）が主催し、参加者を公募する山行。

2、公開自主山行

会員個人が主催し、参加者を公募する山行。

上部団体・日本勤労者山岳連盟 tel:03-3260-6331				
秩父御岳山		山行計画書		
提出日		提出者(リーダー)	受領山行部員	入山日
2017年7月6日		千葉 青史	関口 誠一	7月15日
目的		山域	山名	形態(ハイキング、尾根、縦走、沢、岩、雪)
トレーニング		奥秩父	秩父御岳山	ハイキング
種別(会、自主、個人)		ルート経験者(人数)	帰宅予定日	帰宅予定時刻
会			7月15日(土)	19:30
				公共交通機関
日程及びコース				
集合月日		集合場所・時間	松戸駅 柏よりホーム 6時10分	
松戸 06:15 == 日暮里 06:31/06:34 == 池袋 06:47/07:05 == 三峰口 09:17 三峰口 09:30 ~ 強石 10:00 ~ 杉の峠 11:20 ~ 秩父御岳山 12:50/13:00 ~ 落合 14:30 ~ 遊湯館 15:00 遊湯館 16:00 ~ 西武秩父 16:49/16:51 ~ 池袋 18:33/18:44 ~ 日暮里 18:56/19:06 ~ 松戸 19:22				
ルート概念図		緊急時対応		
		<input checked="" type="checkbox"/> 自力対応 <input type="checkbox"/> 最寄施設連絡 <input type="checkbox"/> 無線機使用 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話使用 <input type="checkbox"/> 他()		
		関係機関連絡先		
		秩父警察署 0494-24-0110		
		ランクA:①1日の歩行が6時間以内の山行②スノーシュー、クロカン ランクB:①10時間以内の山行②小屋泊 ランクC:①10時間を超える山行②テント ③冬山装備 ランクD:①ザイル②岩、沢、氷瀑、山スキー		
特参地図 2万5千分の1地形図(三峯):登山地図(雲取山・両神山) 計画書下山連絡先(会員)及びランクA+Bは山行部員、ランクC+Dは山行部長か副部長へ送付する。 下山連絡先(会員)は下山予定日の22時までに連絡がない場合は山行部長に連絡する。 山行報告書は下山日から3週間以内に計画書を出した山行部員に届ける。				
			閲覧締め切り	6月28日

3、自主山行

会員個人が主催し、参加者を公募しない山行。

4、個人山行

他団体又は会員以外の個人が主催する山行。例えば旅行会社のツアー登山、他の山岳会主催の山行。

ここで言う公募とは、①例会で山行計画書を回覧に付す、②会報山茶花に山行計画を掲載する、③ホームページに山行計画をアップする、④例会で山行計画を発表する、の一つ以上の行為を行うことを言います。

また当会では、山行をその難易度によって、A～Dにランク付けしています。

A 山行=1日の歩程が6時間以内の山行。

B 山行=1日の歩程が10時間以内の山行。山小屋泊りの山行。

C 山行=1日の歩程が10時間を超える山行。テント泊山行。冬山装備の山行。

D 山行=ザイルを必要とする山行。岩、沢、氷瀑。山スキー。

山行部への山行計画書の提出先は、上記のランクによって次のようになります。

A、B 山行=各班の山行部員。

C、D 山行=山行部長又は山行副部長。

山行が終わったら速やかに山行部へ「山行報告書」を提出しなければなりません。以上の書式がまとめられた山行計画書（エクセルデータ）は会のホームページからダウンロードすることができます。

当会では安全登山の観点から、新入会員が山行の主催者（リーダー）になるには、会山行に3回以上参加したことを要件にしています。

以上、説明しましたが、新入会員の方が山行に参加するには、公募か非公募か、山行難易度は自分にあっているか等を勘案して、山行計画書の参加者欄に記名するか主催者に申し込むということになります。

参加者名簿				会員外参加者は△を記入			
役割	氏名	年齢	性別	住所	自宅または緊急連絡先	携帯電話番号	口蓋
1	L	千葉 青史					
2	SL	斎藤 剛					
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							

メモ欄 (注意事項) 敬行は、Altキーを押しながらEnterキーを押して下さい。

※ 下山後、時間があれば温泉で汗を流してから帰りますので、お風呂セットをご用意ください。
(道の駅 大滝温泉 遊湯館 700円)

下山連絡先氏名	自宅電話	携帯電話

ハイキング程度の登山装備			
基本装備	小物	小物	その他
ザック、ザックカバー	○ ヘッドランプ+予備電池	○ 現金・カード	○ 三角巾
登山靴(+靴紐)	○ ホイッスル	○ 保険証	○ 医薬品
靴下	○ コンパス	○ 会員証	○ 日焼け止め、リップクリーム
帽子	○ 地形図・登山地図	○	○ 岩塩
手袋	○ ペンとメモ帳	○ 計画書	○ キズパイン
上着	○ エマーゼーションシート	○ イエローカード	○ サーマス(テルモス)
中間着	○ ライター	○ 防寒着	○ カメラ
シャツ等肌着	○ 水筒(飲料水)	○ オーバーヤッケ	○ 箸
ズボン	○ コップ	○ オーバースポーン	○ GPS
汗ふきタオル	○ もり紙	○ フリース、ダウンジャケット類	○ 温泉セット
雨具(上下)	○ ナイロン袋	○	○ ツェルト()
スパッツ	△ 軽アイゼン	○	○ 食糧
サングラス	△ 時計	○ 昼食、行動食	○ 7層ゼット(カラビナ×2、連付カラビナ×1、スリング)
ストック	△ 携帯電話	△ 非常食	○ 60cm×2、スリング120cm×1、ロープ7mm/5m×1)
折りたたみ傘	△ 免許証	○ お茶・コーヒー類	○

注 リーダーは、各欄に「○:必要 △:場合に寄って必要、あると便利 空欄:不要」を記入

5、日本勤労者山岳連盟について

日本には全国的な山岳会組織が4つほどありますが、当会は、その一つである日本勤労者山岳連盟（略称・労山）に加盟しています。もともと当会は、東京東部地区に勤務する労山会員諸氏が「常磐線沿線に労山山岳会を作ろう」をスローガンに創立されたのです。私たちは、労山の趣意書や自然保護憲章を支持し、その活動の一翼を担っています。労山会員は2015年現在で全国に622団体、約2万人がおり、県単位の連盟組織も持っています。登山環境を向上させるうえで、国や県へ働きかけが必要で、こうした活動は全国連盟本部や県連盟が担っています。また世界の登山愛好者との交流の窓口にもなっています。会費1,000円のうち300円は県連盟と全国連盟への加盟金です。

6、労山新特別基金の概要

1、労山新特別基金は会員の寄付金によって運営される山岳遭難救助制度です。登山中のケガ、事故、捜索、救助などの事故に適用されます。室内クライミングから雪山、海外登山も対象になります。

2、登山口から下山口までの事故等が交付対象です。交通事故・交通機関の事故等は対象外です。

3、加入申込書を労山新特別基金管理運営委員会が受理した日から交付されます。

4、3日以上入院・通院は1日目から交付されます。入院は事故発生日から1年以内の210日まで、通院は50日まで交付されます。山行中の疾病（高山病・日射病・凍傷）にも交付されます。

5、人口壁（クライミングジム）での事故も交付対象です。山行計画書は不要です。

6、交付されない例

①無届山行（所属会に山行計画書が事前に提出されていない）。

②事故日から30日以内に事故発生の連絡がない。

③事故から1年以内に交付申請がない。

④海外登山での事故で、事前に山行計画書の提出がない。

全国の仲間
のたすけ合い基金です

